

KI News & Topics

Irregular Newsletter vol,25

大木記念女性のための菊池がんクリニック

〒359-1133 埼玉県所沢市覚帳111-1 Tel/04-2928-7311 Fax/04-2928-7306



第55回 ASCO 総会に採択されました!!

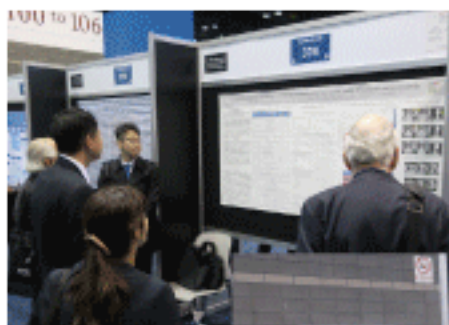
今号はシカゴでのASCO(米国臨床腫瘍学会)にポスター発表した当クリニックの非常勤医師・高野政志先生の報告です。

2019年初夏、シカゴでのASCO 2019に行ってきました。毎年、種々の癌腫に対する新規治療法が華々しく発表される「お祭り」です。ASCOに集う医師、薬剤師、製薬会社、さらには患者団体、プレスの関係者あわせて5万人が参加するといわれています。

ASCOは2010年から2020年までシカゴ開催に固定化されており「また、シカゴ……」とため息も聞こえてきますが、さらにネット情報を見ると2024年までシカゴでの開催とのことです。さらに「え……」です。しかしながら、シカゴの街並みは毎年、確実に進化しており、新たな発見もあります。さて、会場のマコーミック・プレイス会議場(写真①)は敷地面積で京都国際会議場の4倍の大きさがある世界一大きい会議場です。会場の中の渡り廊下は高速道路の上を通過しており、そこからみたシカゴのダウンタウン摩天楼はとてきれいです(写真②)。毎年、この写真をとるのが恒例行事になってしまいました。

今年は、菊池がんクリニックの治療成績のデータに関して2演題がポスター発表に採択されました。一つ目は高崎和樹先生がまとめてくれた「Complete remission of patients with heavily pretreated uterine sarcomas by weekly bevacizumab and temozolomide」という演題です。ペバシズマブとテモゾロマイド併用療法が再発子宮肉腫に有効であったというデータです。6月1日にポスター発表をしました(写真③)。もう一つは吉川智之先生がまとめてくれた「Can serum IL-6 levels predict sarcopenia and poor outcome in relapsed/refractory gynecologic cancer

patients?」という演題です。血清IL-6値が再発婦人科癌の予後や、サルコペニアと関連する、というデータです。角倉仁先生が代役として6月1日にポスター発表をしてくださいました(写真④)。両ポスターともに、外国の先生や製薬会社の関係者から多くの質問がきました。高崎先生、角倉先生ともに上手に返答されていました。ともに反響がおおきく、今後が期待される内容でした。



写真③
高崎先生、
的確に英語で
対応しています。



写真④
角倉先生、
英語の質問も
全く動じません。

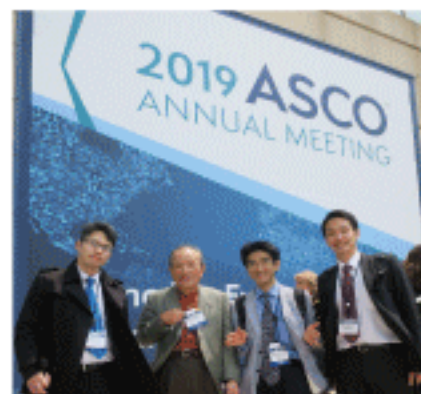
終了後に、会場入り口で記念写真を撮りました。会場前で「I'LL BE BACK」と宣言し、来年も発表できるようしっかりデータをまとめようと思いました(写真⑤)。貴重な機会を与えて頂いた菊池がんクリニックの菊池義公院長、ならびにスタッフの皆様へ深謝いたします。また、菊池がんクリニックの患者さんの貴重なデータを世界の先生方と議論でき、大変有意義な場となりました。



写真① マコーミック・プレイス会議場



写真② シカゴのダウンタウン摩天楼



写真⑤ 来年もASCOにくるぞー「I'LL BE BACK」